

平成期における設計者選定方式の展開と検証

Development and verification of architect selection method in the Heisei period

○佐村航¹, 田所辰之助²○Wataru Samura¹, Shinnosuke Tadokoro²

Abstract: The history of Japanese architectural design competition began with the imitation of world-standard design competition, but due to the changes in the role of architects required by society and the structure of Japan's unique building industry, there are discrepancies in its philosophy and reality. I study the design competition of the Heisei semester, grasp the actual situation of the architect selection method in Japan, and consider the problems.

1. 背景と目的

近代以降の日本の建築家は、学会や職能団体の形成、また建築士法の制定などによってその職能を確立しようとしてきた。中でも、“建築設計競技”は建築家の社会からの立ち位置、つまり職能を因る上で重要な要素であり続けてきたが、近年では諸問題の発生や多様な選定方式の誕生により、設計競技における建築家の立場・役割も変遷してきており、その実態については今一度検証する必要があると考える。未だ研究の進められていない分野である平成期の実施設計競技を研究対象とし、日本における設計者選定方式の現状の課題について考察することを目的とする。

2. 研究方法

基礎研究として、関連文献や雑誌を通して既往研究の整理と平成期での設計競技の実態把握を行う。基礎研究を終えた段階で、主対象とする設計競技の選別や選定方式・応募要項などのデータの抽出をし、“建築設計競技”に対する本研究での論点の検討を行う。

3. 日本における建築設計競技の変遷

日本で本格的な建築設計競技が導入されたのは、1907年の「台湾総督府庁舎競技」においてである。当時は、近代コンペとしては未熟なものも多かったが、国家的建造物においても設計競技が採用されるようになり、日本的なものへの模索が設計競技において建築家にも求められた。戦後は、復興気運とともにモダニズム建築の推進により、設計競技において一層建築家の活躍の場が広がった。平成期に入ると、国際化や公開化といった新たな手法を用いた話題性の高い設計競技が次々と催されるとともに、主にプロポーザル方式の導入・普及によって地方自治体においても入札方式によらない設計競技が開催されるようになるが、同時に建築家の職能を揺るがすような事例も多々生じた。

4. 課題・争点の抽出

4-1. 選定方式

建築界において、昨今主流となりつつある「プロポーザル方式」においては、実績重視の傾向が見られる。応募者側の公平性・競争性を担保するという当初の意図とは反している状況になりつつある。

4-2. 市民参加

設計競技の公開化・透明化が進むと同時に、公共建築の建設の為の合意形成の重要性が増し、競技過程においても市民参加の場が設けられ、その際に問題が生じてしまう事例も多くなっている。

4-3. デザインビルド問題

デザインビルド方式の導入により、設計・施工における相互監理の関係性が崩れることで、建設価格の不透明度が上がったり、品質の担保がなされないといった危惧が生じる。

4-4. 設計者選定機関

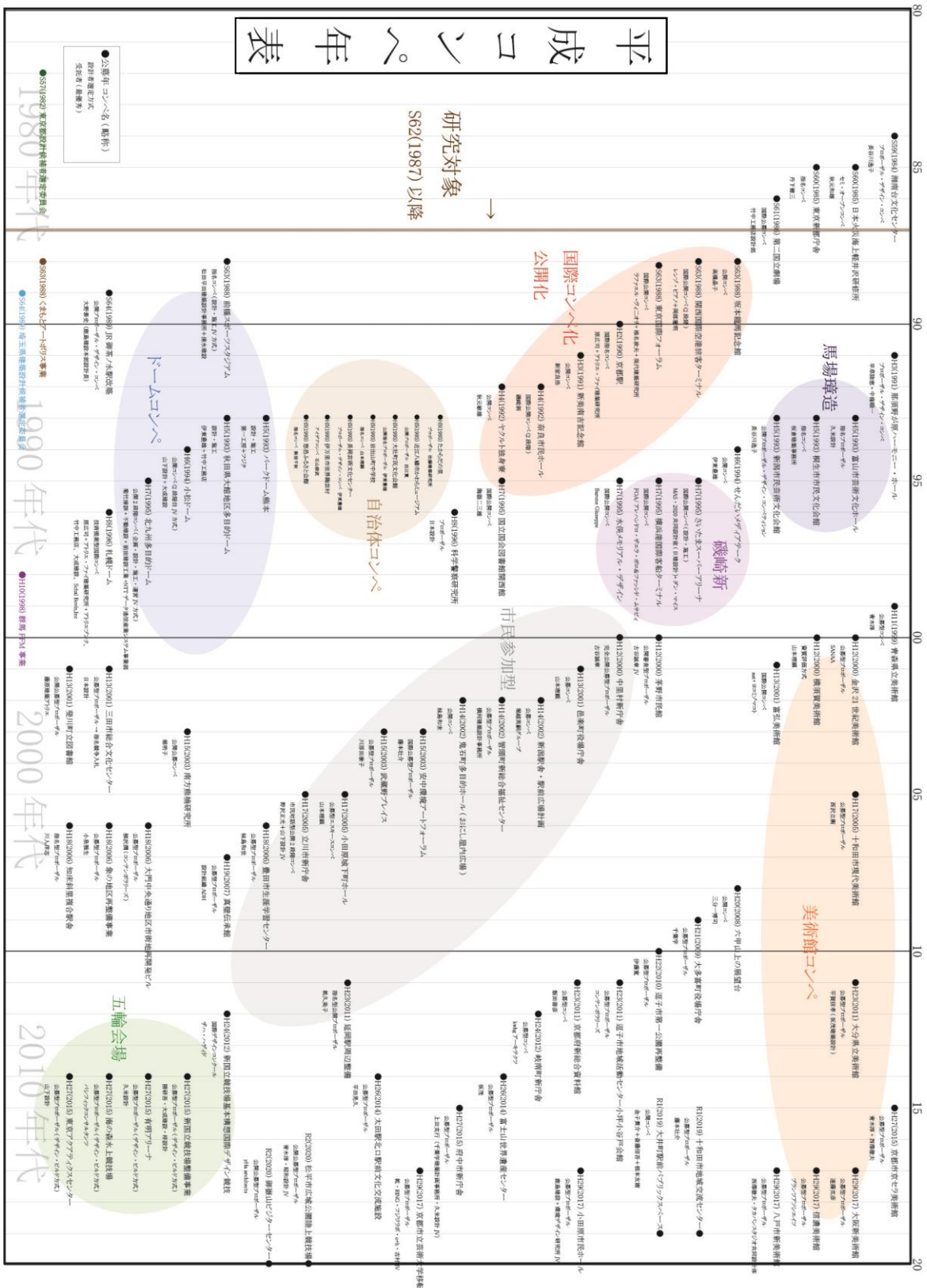
「くまもとアートポリス事業」(1988)は知事が指名したコミッショナーの責任で設計者を選ぶ方法を採用しており、継続性やその形態の独自性、実施された建造物は他の選定機関とは一線を画しているといえる。

5. まとめ

世界基準の設計競技を模して始まった日本の建築設計競技史であったが、日本独自の建築業界の構造と社会に求められる建築家の役割の変化によって、その理念と実態には齟齬が生じてきている。80年代は設計入札を問うためのコンペ隆盛期があり、その後の90年代はコンペの公平性を問うという点でプロポーザル方式が展開していくという一連の潮流と問題意識の存在が見られたが、00年代後半以降は新たに誕生した諸選定方式の評価・検証といったコンペに対する議論の場が建築界で失われてしまったのではないかと考える。

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

【表1 平成期における主な設計競技の年表】



主な参考文献

[1]近江榮『建築設計競技 コンペティションの系譜と展望』鹿島出版会, 1986年 [2] 中川武・西沢大良「コンペの可能性-現代の建築のために」『新建築』, 第82巻5号, 2007年4月号, pp. 61-67 [3] 大川三雄「戦後日本の建築デザインコンペ」『JIA MAGAZINE』, 第274号, 2011年11月号, pp. 2-9 [4] 井上直・小澤丈夫・角哲・尾辻自然「くまもとアートポリ

ス事業の展開と設計者選定」, 日本建築学会北海道支部研究報告書, 第86号, 2013年06月, pp. 293-296 [5] 内藤廣・日経アーキテクチュア『検証 平成建築史』日経BPマーケティング, 2019年[6] 山本想太郎・倉方俊輔『みんなの建築コンペ論-新国競技場問題をこえて』NTT出版, 2020